

テーマ:星

テーマを設定する

- ・5月の遠足でプラネタリウムに行き、星に興味をもったことでもっと星について知りたいとテーマにする。

活動①話し合いを行う

- ・プラネタリウムで体験したことを思い出して再現しようとする。他のクラスを招待したいから

探索活動を実践する

○活動内容

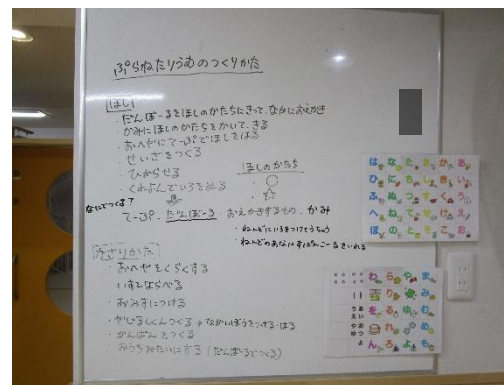
- ・プラネタリウムを作る

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり

- ・作る事に意欲的で、次々とイメージしたものが出てくる。
- ・実際にプラネタリウムで体験したことを思いだして再現しようとする。(リクライニングチェアを作りたい)
- ・星は☆ではなく○だったよ!
- ・完成したら他クラスを招待したい→看板を作ろう!

活動スケジュール

活動内容	時間	人数
① どんなプラネタリウムにしたいか話し合う。	30分程度	20名
② 紙粘土で作る。	1時間程度	19名
③ 紙粘土に色を付ける。看板を作る。	1時間程度	20名
④ 大きな紙に絵を描く	1時間程度	20名
⑤ 夜空を作る(はじき絵)	1時間程度	12名
⑥ 星座を作る(星を描く・切る・貼る)	1時間程度	20名
⑦ 大きな画用紙に絵の具を飛ばす	1時間程度	18名
⑧ 作品を広げて話し合い	1時間程度	14名



振り返りを踏まえた気づき

- ・どんどん作りたい物のイメージが出てきて「早く作り始めたい」と言う気持ちの子が多数いた。
- ・各々のイメージを組み合わせると出来上がるものに期待を持って取り組めるようにしていきたい。

活動②・紙粘土で作る。

環境をデザインする

○準備した物

- ・紙粘土



探索活動を実践する

○活動内容

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・紙粘土の感触を楽しみながら、粘土道具を使って様々な形を作る。
- ・粘土より軽く作りやすかったのか、次々と作りたいものは出来ているようだったが
「プラネタリウム」や「星」とは全く関係ない「キッチン」を作る子どももいた。
- ・プラネタリウムを見た時は、いろいろな星座があったこと、どんなものがあったかを
声をかけることで思い出して作ろうとする子どももいた。
- ・色がないことで、作りづらそうにしている子どももいる様に感じた。

振り返りを踏まえた気づき

- ・導入が少なすぎてしまったことで、何を作ればよいのか戸惑い、普通の粘土遊びになってしまった。
- ・前回、「プラネタリウムを作る」と話し合った時から、少し経っていたので、全体で「星」について話し合いイメージを頭に思い浮かべてから作り始めると、より楽しんで作ることが出来た。
- ・色がないことで、作りづらそうだったので、その場で色を加えてよりイメージしやすく、作りやすくしてもよいと感じた。

活動③紙粘土に色をつける・看板を作る

環境をデザインする

- ・画用紙・クレヨン・マジック・絵の具・筆
- ・セロハンテープ
- ・容器等

- ・紙粘土で作ったものに色を付ける。
- ・看板を作る



探索活動を実践する

○活動内容

- ・紙粘土で作ったものに色を付ける。
- ・看板を作る

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・紙粘土で作った物を見せて、好きな色で自由に塗り始める。
- ・色を混ぜて塗る子、淵の部分は違う炉に居するなど各々、好きなように塗っていた。
- ・看板は自由に絵を描き始めるが、看板のように見えなかったため「ぷらねたりうむ」と描いたらわかりやすくなるかもしれないとアドバイスする。小さく字を書いていた。

振り返りを踏まえた気づき

- ・様々な色付け方の子がおり、こだわりがあるように見えたが紙粘土が落ちてしまったりなど、しっかりくっついていないことで塗りづらそうにする場面もあった。
- ・看板作りは、街中の看板などの写真を見せてから行い看板とはどのような物なのかを伝えてから取り掛かっても良かった。

活動④大きな紙に絵を描く。

環境をデザインする

模造紙・クレヨン

探索活動を実践する

○活動内容

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・「空」のイメージはあり、虹を描いたり太陽を作る子はいた。

- ・描いている間に「プラネタリウム」という意識はなくなり、

自由に女の子の絵を描く子もいた。「黒っぽい空の色を今度上から塗ってよ夜の空にするよ」と伝えることで、黄色など明るい色で絵を描くことを楽しんでいた。



振り返りを踏まえた気づき

- ・今まで行っていた画用紙サイズではなく長く広いスペースがある紙でのお絵描きだったので、次々と描きたい物のイメージを広げて描くことを楽しんでいる姿が見られたのは良かった。

- ・初めは1枚ずつしか紙を出していなかったが興味を持って描きたがる子が増え、2枚床に広げる形で行った事で絵の上下が定まらずちょうどよい形になったと思ふ。

活動⑤夜空作り

環境をデザインする

- ・机、画用紙、絵の具

探索活動を実践する

○活動内容

はじき絵

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

机の用意、絵の具の用意など意欲的に率先して行う。端始めは自分の好きな色のみ選んで塗ってイメージごとに色が分かれていた。子どもは気にしていない様子もあったがイメージしていた物（絵本）を見ながら「この空は色ごとに分かれているかな？」と問いかけると、絵本を見ながら重ね塗りし始め、混ざりあった色を見て喜んでいた。



振り返りを踏まえた気づき

- ・単色ずつ色作りをしたが、最初から黒に青や紫などの色を混ぜて色作りをしたら夜空が黒一色だけではないことに気付いたかもしれない。
- ・自分の好きな色を塗り終え、飽きてしまった子もいたが片付けは協力して皆で行うことができた。

活動⑥星座作り

環境をデザインする

- ・画用紙・のり

探索活動を実践する

○活動内容

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・意見（材料は何が良いか）は沢山あがった。
- ・星の形を描くことが難しい、星を作る事が難しい様子があった。
- ・星のパーツを作って満足し、並べて星座を作るという作業は難しい様子だった。



振り返りを踏まえた気づき

- ・材料は豊富に準備をする。
- ・子どもには普段使い慣れた知っている材料で作ろうとしていた。始める前に丁寧に星座の本を見せて星の形だけが星ではないことやボタンやシールなどで星を並べたり、線で結び星座を作って見せてから作業にとりかかれば星の形で苦戦してやる気をなくしてしまったり、難しそうと感ずることも無かったかもしれない。子どもたちの創造性をのばしたかったが、ある程度の見本は必要だと感じた。

活動⑦ 星空作り

環境をデザインする

- ・シート・絵の具・模造紙

探索活動を実践する

○活動内容

- ・大きな模造紙に絵の具を飛ばす技法を用いて星空作りを行なう。

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり

子ども：夜の空の星ってつぶつぶの星だよ

保育者：つぶつぶの星ってどうすればできるかな？

子ども：七夕（製作）の時みたいに、歯ブラシとアミでやればできるんじゃない？ストローでフーってする。

保育者：じゃあ、やってみよう

子ども：私もやってみたい



振り返りを踏まえた気づき

- ・以前星空をここで作った時は星＝☆の形で作ろうとしていたが、それから数日経ち星空の星は☆の形でなく小さな点だという事に子ども達が気づき、それを表現してみたいという意欲に対して一緒に考え、子どもたちの思いついた方法を実践できたのは良かったと思う。普段、汚れることを拒んで絵の具を使った製作をやりたがらない子も筆で絵の具を振り払って、飛ばすという表現方法に興味を持って取り組めたのは良かったと思う。

活動⑨模造紙をつなぎ合わせる

環境をデザインする

- ・ 模造紙、セロテープ、色鉛筆

探索活動を実践する

○活動内容

- ・ 大きな星空を作る

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

・ 大きな模造紙をホールに広げ、つなぎ目の部分をセロテープで貼る、ホールにあらかじめ広げたい模造紙を見て「大きい」と今まで作った星空の作品を喜んで見ている。セロテープの貼り方も子ども同士で「横ではなく縦に貼った方がしっかり貼れる」と発見しながら取り組む。貼り合わせたものを見て「前に作った小さい星を上貼って良い？」ということでパーツをもってきて両面テープで貼る。貼り終えても「もっと貼りたい」との声が多く追加で作る。



振り返りを踏まえた気づき

・ 大きい星空を見てそれまでに作っていた星のパーツを子ども自身が気づき、子ども達から「貼っていい？」という声があがり追加で貼った事でより迫力のある作品になった。

・ 1時間以上集中してしていた作品が目に見えて出来上がっていく喜びを子ども達と共有できた。

活動⑧プラネタリウム完成

環境をデザインする

- ・プラネタリウム配置

探索活動を実践する

○活動内容

- ・プラネタリウムに他クラスを招待する

○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

・子ども：たんぽぽさんは寝転がるのは難しいんじゃない？（台本に寝転がって下さいとあるため）

子ども：じゃあ、そこは言わなくていいんじゃない？

子ども：そうだね、じゃあここから言おう

保育者：紹介する星の前にみんなが立ったらお客さんが見えないかもしれないね。

子ども：じゃあ横に立とう

保育者：矢印くんだけだと、お客さんちょっとわかりづらいかもしれないね。

子ども：ライトで照らしたら見えるかも！



振り返りを踏まえた気づき

・招待するクラスに合わせて台本を少し変えてみるなど、子ども達同士の話し合いのうちに中で進めていることに驚いた。

・クラスごとに係を変えたが、子ども自身が考えやりたい係を選んでやったことで全員がワクワクしながら係をやっていて喜びながら行っていた。

・字が読めない子も友達に教えてもらいながら台本を読みたいという意欲がわき、挑戦する姿も見られ良い経験になったと思う。

・プラネタリウムは6回行った。回を重ねるごとに「次は〇〇組だから、怖がらないようにそばにいてあげよう」「ゆっくり言おう」など台本を読むペースなども考えながら進めていた。全員が意欲的に参加できるようにした。